

受章おめでとうございます

このたび、元窪川町長の中平一男氏が、地方自治功労者として「旭日単光章」を受章され、伝達式が行われました。

故 **中平 一男** 氏（根元原・82歳）

氏は、昭和63年から平成8年までの8年間にわたり旧窪川町長として、農林水産業振興、観光振興、文化の振興、地域の活性化など多くの分野について尽力されたその功績が認められ、今回受章されたものです。



中平一男氏の長男
中平 健太郎さん

太陽工業株式会社より布マスク 300枚を寄贈いただきました

6月8日に太陽工業株式会社より、新型コロナウイルス感染症対策用布マスク300枚を寄贈いただきました。

太陽工業株式会社は四万十町と「災害時における応急対策用天幕等資機材の供給に関する協定」を締結しており、大規模災害が発生した場合、その対応に係る資機材の協力要請ができる体制となっています。

いただいた布マスクは、町内の福祉事業所へ配布する予定です。



6月27日に
オープン
しました!



40010 RIVER ZIPLINE
四万十川ジップライン

料 金／大 人：2,500円
こども：1,800円（高校生を含む18歳未満）

時 間／9:00～ 受付終了 16:30

定休日／木曜日（GWと8月中は無休）

ご予約・お問い合わせ先 28-5554（四万十川ジップライン）
道の駅四万十とおむ敷地内

ご応募
お待ちしております!

土佐くろしお鉄道中村線開業50周年記念イベント 開業当時の思い出写真・思い出のエピソード大募集!!

中村線開業50周年を記念して
ロゴマークを作成しました。



土佐くろしお鉄道中村線は、令和2年10月1日に開業50周年を迎え、お客様に感謝の気持ちを込めて、50周年記念イベントを企画しています。

記念イベントの一環として、開業当時の思い出の写真や歴史を振り返るパネル展を実施する予定です。パネル展に使用できる写真や当時のエピソードなどを募集しています。

皆さまから寄せられる50年分の思い出を楽しみにお待ちしております。

【応募・お問い合わせ先】

〒787-0014 高知県四万十市駅前町7-1

土佐くろしお鉄道 総務部 企画営業課

☎0880-35-4962

（平日9時～17時）

●ホームページ ↓詳細はこちらから

<https://www.tosakuro.com/>



季節の風景 7月

高知大空襲



マリアナ諸島のグアム・サイパン・テナンの3島4基地から、姫路・高松・徳島、そして高知への爆撃のためアメリカ陸軍航空軍第21爆撃集団所属の501機のB-29爆撃機が出撃し、硫黄島を経由して、それぞれの都市へ向かいました。1945年7月4日未明、第73爆撃団のB-29が125機、高知市上空に飛来。午前1時52分から同2時52分までに1060.8米トンの焼夷弾を投下。死者401人・重傷95人・軽傷194人・不明22人・罹災人口4万737人・罹災面積418万6千446平方メートル・全焼壊1万1千804戸・半焼壊108戸。このミッション248と呼ばれる空襲で、高知市中心部の40%を焼失。高知城の一部が被害を受け、坂本龍馬の生家など江戸時代以来の貴重な町並みが失われました。戦争は、子ども・女性・お年寄りなど一般庶民の尊い生命が必ず犠牲に曝されます。あの日から、三四半世紀（75年）が経過し、戦争を知らない世代が大多数を占める昨今ですが、戦争の悲惨さ・平和の尊さを後世に永劫に受け継いでいくことの大切さを改めて感じずにはられません。

今月の



流域住民の中に自然に 混ざり合っていたい!



▲子どもたちと水生生物のお勉強!

この春、四万十川財団の新しい職員となった丸石さんは広島県廿日市市佐伯町のご出身。平成の大合併で廿日市市になりましたが、佐伯町は山の中の小さな町だそうです。「小学校、中学校と、人間関係が固定化されたイナカの小さなコミュニティの中で過ごしてきた、高校は広島市内に出たかと思っていたのと、勉学面でも市内の進学校にチャレンジしたいと思っていた」そして志望校に見事合格。小学生の頃から陸上競技に打ち込んできた丸石さんは、高校入学と同時に迷わず陸上部に入部し、400mハードルの選手として頑張りました。ご本人によると「ずっと陸上をやってきたけれど、中学、高校と、それほど大した選

手ではありませんでしたので、勝つことよりも自分の記録を更新することに集中して取り組んでいました。自分の壁を越えていくことに意義を感じていました。そんな丸石さんは、いつの頃からか抱いていた環境問題への関心から、北海道大学農学部への進学を希望するようになりました。しかしさすがに難関。現役での合格はかなわず、広島市内の予備校へ通いながら捲土重来を期すことに。予備校では教員や友人に恵まれたといいます。暗記中心の単なる受験対策ではなく、学問への興味を湧かせてくれる教員や、教え合い学び合いながら共に伸びていくという友人たち。そんな環境でさらに学力を伸ばすことができた丸石さんの北大への二度目の挑戦は水産学部。そして合格!水生生物との関わりはここから始まりました。



まるいし
丸石 あいみさん
（昭和）

200を超える参加チームの中で、常に上位を争えるチームに所属していました。これが高知との関わり始まり。

濃密で有意義な大学生活を終えた丸石さんは、東京にある大手居酒屋チェーンに就職。水産業をはじめとする一次産業に携わる人たちのために「バイヤーになることを目指したの

でした。しかし、実際に手がける仕事は、店舗経営や接客ばかり。初志の実現など全く望めそうにないと感じ、1年半で退社。水産の仕事がしたいと関わりとしていた時に、移住相談会に参加。四万十市の地域おこし協力隊として、西土佐の鮎市場で働くことができました。鮎市場で2年半勤め、協力隊の任期満了まで残り半年というところで、縁あって四万十川財団のスタッフとなったというのです。

一本筋の通った生き方を貫こうとする丸石さん。地に足のついた学び、現場での学び、根本から考える学びをこれからも大切にしながら、この流域の住民の中に「自然に混ざり合っていたい」と考えています。